

【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

鳥取県病害虫防除所ホームページにて病害虫予察情報を随時更新しています。
各種情報は右の QR コードからご覧いただけます。



令和 8 年度病害虫発生予報第 9 号

令和 8 年 1 0 月 7 日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
果樹	共通（ナシ、カキ、ブドウ、リンゴ）	カメムシ類	—	やや多い
野菜	ブロッコリー	軟腐病	平 年 並	平 年 並
		黒腐病	—	やや少ない
		べと病	平 年 並	平 年 並
		黒すす病	—	平 年 並
		アブラムシ類	—	平 年 並
		コナガ	—	平 年 並
		ハスモンヨトウ	—	平 年 並
	ネギ	黒斑病	—	平 年 並
		さび病	平 年 並	平 年 並
		べと病	平 年 並	平 年 並
		ネギアザミウマ	—	やや多い
		ネギハモグリバエ	—	やや多い
		シロイチモジヨトウ	—	やや多い
	ラッキョウ	ネギハモグリバエ	—	やや多い

気象予報（抜粋）

1 か月予報（1 0 月 3 日～1 1 月 2 日：1 0 月 1 日、広島地方気象台発表）

向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は、高い確率 6 0 % です。

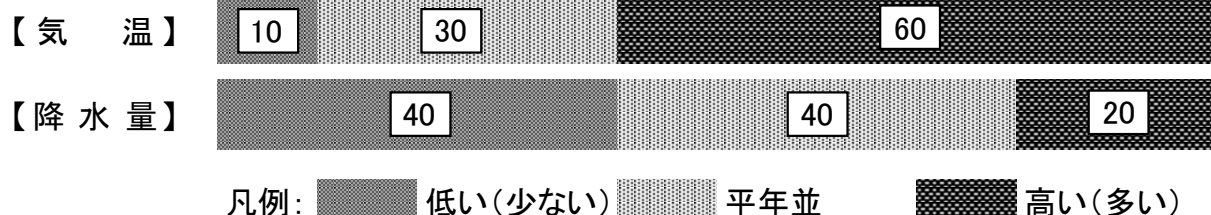
週別の気温は、1 週目は、平年並または高い確率ともに 4 0 % です。2 週目は、高い確率 6 0 % です。3 ～ 4 週目は、高い確率 6 0 % です。

【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

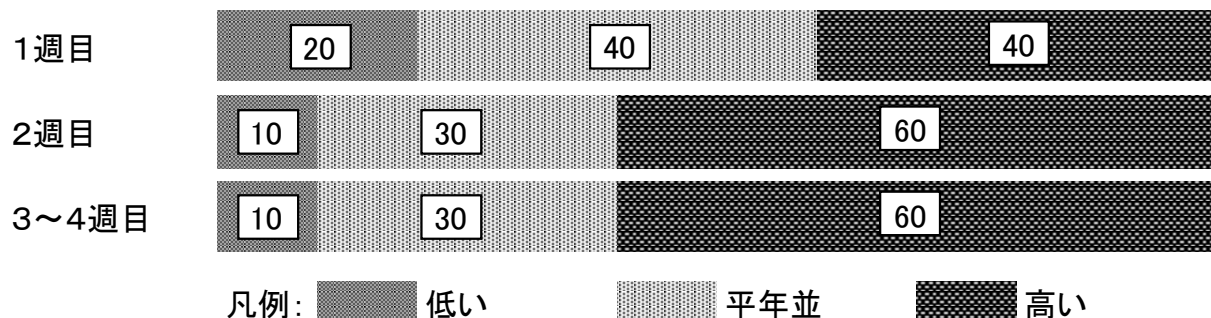
鳥取県病害虫防除所ホームページにて病害虫予察情報を随時更新しています。
各種情報は右の QR コードからご覧いただけます。



<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



果 樹

[果樹共通 (ナシ、カキ、ブドウ、リンゴ)]

1 カメムシ類

(1) 予報の内容

発 生 量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月中旬現在、予察灯及び集合フェロモントラップにおけるカメムシ類の誘殺数は概ね平年並であるが、平年に比べて多い地点がある。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年に比べてやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 8月以降、第2世代成虫の発生時期となるため、果樹園への飛来が増加する恐れがある。

イ 被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う。

ウ 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。また、移動性が高いため、広域的な防除に努める。

エ 薬剤は樹種ごとの防除暦を参考とする。

オ 樹種によっては収穫中又は収穫後となっているので、農薬の使用基準を遵守する。



野菜

[ブロッコリー]

1 軟腐病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場において、本病の発生は認められていない。

イ 本病は降雨が多い場合や、台風に伴う風雨によって発病が助長されやすい。
また、滞水が多い場合、特に発生量が増加する。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場の排水に努める。

イ 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため害虫防除を徹底する。

ウ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風直後は、天候回復後できるだけ早く薬剤散布する。

エ 薬剤は、ナレート水和剤1,000倍液、銅水和剤（Zボルドー500倍液
又はクプロシールド1,000～1,500倍液）、コサイド3000の
2,000倍液などを散布する。

2 黒腐病

(1) 予報の内容

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における本病の発生は認められていない。

イ 本病は降雨が多い場合や、台風に伴う風雨によって発病が助長されやすい。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや少ないと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため、害虫防除を徹底する。

イ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風直後は、天候回復後できるだけ早く薬剤散布する。

ウ 肥料不足で発病が助長されるため、肥料切れしないよう注意する。

エ 薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー又はカップーシン水和剤）1,000倍液、キノンドー水和剤40の800倍液、ヨネポン水和剤500倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。

3 ベと病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場において本病の発生は認められていない。

イ 本病は10～15℃程度の気温で、降雨が多いと発生量が増加する。

ウ 向こう1か月の気象予報及び発生推移から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 晩生品種では、花蕾にべと病が発生しやすい品種があるので、予防防除を徹底する。
- イ 薬剤は、中～晩生品種ではフォリオゴールド1，000倍液、レーバスフロアブル2，000倍液、シグナムWDG1，500～2，000倍液、メジャーフロアブル2，000倍液、ピシロックフロアブル1，000倍液などを10月中旬～11月上旬頃の発生初期に散布する。

4 黒すす病

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における本病の発生量はやや少ない。
- イ 本病は、気温25℃付近が発病適温であり、多湿条件下で発生が多くなる。また、降雨と強風により発生が多くなるため、台風に伴う風雨によって発病が助長されやすい。
- ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 予防防除を徹底する。特に大雨や台風の直後には、天候の回復を待てずできるだけ早く薬剤散布する。
- イ 薬剤は、シグナムWDG1，500倍液、アフェットフロアブル2，000倍液、アミスター20フロアブル2，000倍液、パレード20フロアブル2，000～4，000倍液、メジャーフロアブル2，000倍液、ホライズンドライフロアブル2，500倍液、ファンタジスタ顆粒水和剤3，000倍液、ベジセイバー1，000倍液などを散布する。

5 アブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生は認められていない。
- イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- 薬剤は、リーフガード顆粒水和剤1，500倍液、アクタラ顆粒水溶剤3，000倍液、ランネート45DF1，000～2，000倍液、ウララDF2，000～3，000倍液、モベントフロアブル2，000～4，000倍液などを散布する。

6 コナガ

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。
- イ 県予察ほ場（園芸試験場）及び現地調査ほ場におけるフェロモントラップの誘殺数は平年並である。
- ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 出蕾までに、トルネードエースDF2，000倍液、アニキ乳剤1，000～2，000倍液、グレース乳剤2，000～3，000倍液、



ヨーバルフロアブル 2, 500～5,000 倍液、プロフレア SC 2, 000～4,000 倍液などを散布する。

イ 上記生育期以降に発生がみられる場合は、ディアナ SC 2, 500～5,000 倍液、プレオフロアブル 1, 000 倍液などを散布する。

7 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや少ない。

イ 県予察ほ場（園芸試験場）及び現地調査ほ場におけるフェロモントラップの誘殺数はやや少ない。

ウ 当該害虫は、高温条件下で発生が助長される。

エ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤の感受性が高い若齢期に防除を行うのが効果的である。ほ場内を観察し、発生がみられる場合には直ちに防除を行う。

イ 薬剤は、アニキ乳剤 1, 000～2,000 倍液、プレオフロアブル 1, 000 倍液、ファルコンフロアブル 4, 000 倍液、グレース乳剤 2, 000～3,000 倍液、ヨーバルフロアブル 2, 500～5,000 倍液、プロフレア SC 2, 000～4,000 倍液などを散布する。

[ネ ギ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における本病の発生量は平年並である。

イ 本病は平均気温 25℃前後が発病適温であり、降雨が多い場合に多発する。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 根傷み、肥料不足で発病が助長されるので、肥培管理に注意する。

イ 薬剤は、マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブフロアブルなど）600 倍液を発病初期から散布する。発病が増加する場合は、ロブラール水和剤 1, 000～1,500 倍液、ファンタジスタ顆粒水和剤 3, 000 倍液、シグナム WDG 1, 500 倍液などを散布する。

2 さび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場において、本病の発生は認められていない。

イ 本病は、夏期が猛暑の年は秋期には多発しにくい傾向がある。

ウ これまでの気象経過及び向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤は、マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤 600 倍液、ペンコゼブフロ



アブル 500～600 倍液)、オンリーワンフロアブル 1, 000 倍液などを
予防的に 1～2 回散布する。発病後は、オンリーワンフロアブル 1, 000 倍液
にカリグリーンを 800 倍で混用して散布するか、アミスター 20 フロアブル
2, 000 倍液、ファンタジスタ顆粒水溶剤 3, 000 倍液、カナメフロアブル
4, 000 倍液、カーニバル水和剤 1, 000 倍液、シグナムWDG 1, 500 倍液
などを散布する。

3 ベと病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9 月下旬現在、現地調査ほ場において本病の発生は認められていない。

イ 本病は、15～20℃程度の気温で降雨が続くと発病が増加する。

ウ 向こう 1 か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想され
る。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後は早期に蔓延するため、発病前からの防除に努める。

イ 次年度に向けて越冬伝染源を減らすためにも、秋期防除を徹底する。

ウ マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブフロアブルなど）
600 倍液、ランマンフロアブル 2, 000 倍液、アリエッティ水和剤
800 倍液、ダイナモ顆粒水和剤 2, 000 倍液、ピシロックフロアブル
1, 000 倍液などを予防散布する。

エ 発病を認めたら直ちに、リドミルゴールド MZ 1, 000 倍液、
フォリオゴールド 800～1, 000 倍液、レーバスフロアブル 2, 000 倍液、
プロポーズ顆粒水和剤 1, 000 倍液、メジャーフロアブル 2, 000 倍液、
フェスティバル C 水和剤 1, 000 倍液、シグナムWDG 1, 500 倍液、
オロンディスウルトラ SC 2, 000 倍液、ザンプロ DM フロアブル
1, 500～2, 000 倍液などを散布する。

オ 同一成分を含む薬剤は連用しない。また、成分ごとの総使用回数に注意して
薬剤を選定する。

4 ネギアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 9 月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや多い。

イ 向こう 1 か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤は、アグリメック 500～1, 000 倍液、ハチハチ乳剤 1, 000 倍液、
ディアナ SC 2, 500～5, 000 倍液、ウララ DF 1, 000～
2, 000 倍液、グレーシア乳剤 2, 000～3, 000 倍液などを、
7～10 日間隔で 10 月中旬頃までローテーション散布する。

5 ネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 9 月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや多い。

【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

鳥取県病害虫防除所ホームページにて病害虫予察情報を随時更新しています。
各種情報は右のQRコードからご覧いただけます。



イ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤は、アグリメック500～1,000倍液、ディアナSC2, 500～5,000倍液、グレーシア乳剤2,000～3,000倍液、アグロスリン乳剤2,000倍液などを散布する。

6 シロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや多い。

イ 県予察ほ場（園芸試験場）及び現地調査ほ場におけるフェロモントラップの誘殺数はやや多い。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫による被害がみられる場合は、スピノエース顆粒水和剤5,000倍液、プレオフロアブル1,000倍液、トルネードエースDF1,000倍液、グレーシア乳剤2,000～3,000倍液、ヨーバルフロアブル2,500～5,000倍液などを散布する。

【ラッキョウ】

1 ネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや多い。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤は、ディアナSC2, 500～5,000倍液、プレバソンフロアブル5の2,000倍液、グレーシア乳剤2,000～3,000倍液などを散布する。

【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

鳥取県病害虫防除所ホームページにて病害虫予察情報を随時更新しています。
各種情報は右の QR コードからご覧いただけます。



[おしらせ]

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、
周辺への飛散には十分注意しましょう。

農薬の詳しい登録内容は、農林水産省の「農薬登録情報提供システム」から検索
できます (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

なお、農薬の使用や防除指導などに際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。
い。

<鳥取県病害虫防除所ホームページ>

アドレス <https://www.pref.tottori.lg.jp/boujosyo/>



病害虫発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類等）、病
害虫の診断方法等の参考情報をお知らせしていますので、御利用ください。

<お問い合わせ>

普通作物関係

〒680-1142 鳥取市橋本 260

鳥取県病害虫防除所

（電話：0857-53-1345、電子メール：byogaichu@pref.tottori.lg.jp）

もしくは

鳥取県農業試験場環境研究室

（電話：0857-53-0721、ファクシミリ：0857-53-0723）

果樹・野菜関係

〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048

鳥取県園芸試験場環境研究室

（電話：0858-37-4211、ファクシミリ：0858-37-4822）

※次回、予報第10号の発表は12月2日（水）の予定です。

なお、予定日と実際の発表日が前後することがありますので、御注意ください。

【！県内の病害虫に関する情報を配信中！】

鳥取県病害虫防除所ホームページにて病害虫予察情報を随時更新しています。
各種情報は右の QR コードからご覧いただけます。



◆農作業死亡事故警報を発令中！（９月２８日～１０月１１日）

安全確認や声掛けで事故を未然に防ぎましょう

◆令和８年度秋の農作業安全啓発活動を推進中！

（９月１日～１０月３１日）

忘れていませんか？メット・ベルトの基本対策！
転倒から命を守る確かな一歩

- ・機械の転落・転倒防止
- ・シートベルトの着用
- ・ヘルメットの着用

鳥取県農林水産部経営支援課ホームページ、農業機械・農作業安全

<https://www.pref.tottori.lg.jp/119790.htm>

<連絡先>

〒680-8570 鳥取市東町 1-220

鳥取県農林水産部農業振興局経営支援課農業普及推進室
（電話：0857-26-7327、FAX：0857-26-7294）

